

【特集】

大学から地域の最前線へ、
三重大学の新しい社会連携。

CONTENTS

【View of This issue】

大学の第3の使命、
地域における社会連携の在り方

●理事・副学長 | 小林英雄

01

【特集／学長・社会連携関係者座談会】

大学から地域の最前線へ、
三重大学の新しい社会連携。

●学長 | 豊田長康
●福理事 | 奥村克純
●特命学長補佐 | 加藤征三
●産学連携コーディネーター | 相可友規
| 司会 | 理事・副学長 | 小林英雄

02-05

【RESEARCH FRONT 1】

インド仏教思想を深く読み解き、
「存在とは何か」を探究

●人文学部准教授 | 久間泰賢

06-07

【RESEARCH FRONT 2】

暗黒物質の分布を観測から捉え、
銀河形成の謎に迫る

●教育学部准教授 | 伊藤信成

08-09

【RESEARCH FRONT 3】

次世代ゲノム創薬科学の実現をめざし、
メタボリックシンドロームの独自モデルを創成

●大学院医学系研究科教授、
産学連携医学研究推進機構長 | 田中利男

10-11

【RESEARCH FRONT 4】

光ファイバを、安心・安全な
社会の実現に活用するために

●大学院工学研究科教授 | 成瀬 典

12-13

【RESEARCH FRONT 3】

ゼブラフィッシュを用いた
「異分野融合型」のバイオ研究

●大学院生物資源学研究所准教授 | 田丸 浩

14-15

【TOPICS】

「騒音の計測と評価 / dBとLAeq」

「前立腺の病気 改訂新版」

「神経内科の緩和ケア」

2006年12月～2007年5月

三重大学の主な出来事

16

こばやしひでお
工学博士
専門分野は、衛星通信・
移动通信・無線LAN
1951年生まれ



大学の第3の使命、 地域における社会連携の在り方

理事・副学長(情報・国際交流担当)

小林英雄

法人化以降、大学の基本的な使命である教育と研究に
次ぎ、第3の柱として社会連携の重要性が増している。法
人化以前では、社会連携は「社会に開かれた大学」をめ
ざした社会貢献活動の一環として実施されてきた。つまり、
これまでは公開講座や生涯教育など大学組織としての取
り組みが主であり、教員個人が企業と積極的に関わりを持
とうとする活動は少なかった。これに対して、法人化後では、
教員自らが研究成果や技術ノウハウを情報公開し、企業
などと共同で実用化し社会に還元するという積極的な姿
勢が強く求められている。法人化後の教員に期待される
最も大きな意識改革は、こうした社会連携への取り組みと
言っても過言でない。

一方、社会連携への取り組みを同じく目標に掲げていても、
大都市にある大学と地方の大学とでは必ずと様相が異なっ
てきている。大都市大学がグローバルな社会連携を志向
するのに対して、地方大学では最も身近な周辺地域との
連携を重要視している。地域との連携には、教育、まちづ
くり、文化・歴史の調査、地域医療から企業への技術支援
や地域人材育成と多岐に亘っている。これら地域に密着
した連携活動は、結果として地域から期待される大学とし
て、地域に欠かせない大学として地域住民に認識される
ことになる。地域との連携は、このように法人化後の地方
大学として果たすべき重要な使命となっている。

三重大学では、「三重から世界へ：地域に根ざし、独自性
豊かな教育・研究成果を生み出す。～人と自然の調和・
共生の中で～」を大学のミッションとして掲げ、これら使命
を果たすことを目指しています。地域における教員レベル
の連携活動こそが、結果的に三重大学を世界に飛躍させ
る原動力となるのではないのでしょうか。